

## ▶株式会社 エクセリ

# 「顧客満足」の追求 チャレンジ精神を持つ社員の力が成長の原動力



代表取締役社長  
吉田統一

### 「ありがとう」を集めて 進化し続ける組織と社員

進化の歴史とは、進化の歴史だ。企業の中で姿を消す。だからこそ、企業が成長し、継続していくためには、常に進化が求められる。

その「進化」という言葉をそのまま社名に込めているのが、無線機・インカムの販売・レンタルなどを行うエクセリ（東京都中央区）だ。社名の由来は「エクセリクシ」。ギリシャ語で「進化」という意味だ。「今うまくいっていることでも、明日もうまくいくとは限りません。100年企業となるためには、会社も、社員も、常に時代に合わせて進化を続けなければなりません」

そう語るのには、同社の吉田統一社長だ。1998年に無線機事業を開始し、本格的な経営がスタート。顧客のニーズに沿ったサービスが同社の信条で、無線機・インカムのレンタル事業や中古品の取り扱い業界に先駆けて導入を開始。以来、業績は右肩上がり伸び続けている。

「当社のモットーは『OS Before Profit』。ビジネスというのは顧客満

## 「新卒入社3名が語るエクセリの魅力！」 「俺たちが未来のエクセリを作っていく」

成長著しい同社で日々奮闘する社員たち。彼らはなぜ同社に入社し、どんな仕事をしているのか。ここでは新卒で入社した社員が集まってもらい、同社での仕事について語ってもらった。



辻 和幸  
入社4年目  
バックオフィス  
チーム



浅海 蓮  
入社3年目  
経理部  
チーム



尾形 哲  
入社3年目  
営業部

**辻** あつという間に入社して4年が経ったけど、改めて振り返るといろいろあったな。

**尾形** 辻さんはどうしてうちの会社に入ったんですか？

**辻** 正直言うと、無線機の仕事って全然興味を持っていなかったんだよ。就活していたときは、「どんな人と一緒に仕事をするか」をずっと考えていて、そんなとき、吉田社長に面接してもらったんだけど、直感的に「この人についていろいろ思ったんだよ」。

**浅海** 何にそんなに惹かれましたか？

**辻** 目、キラキラしていたんだよ。「目指すなら絶対に1番」という気持ちと一緒。

**尾形** ああ、それは私も感じました。面接のときからうちの会社は業界トップを取っているって言うていましたし。私も社長の熱意に惹かれて入社したんですよ。

**浅海** 私はずっと簿記を学んでいたから、それを生かせる仕事かと思って考えていたんです。就活では70、80社くらいはエントリーしていたんですけど、エクセリに惹かれたのは「F/Oとなる人材を育てる」と書いてあったからなんです。まだ規模は小さい企業だけど、そのぶん成長できると思ったんですよ。

**尾形** 自分自身の成長も実感しやすいと

思いますよ。私はやっぱり営業先のお客様に利用してもらって喜んでくれたときに一番やりがいを感じますね。お客様への満足度を優先して仕事をしているとリピーターにいただけることも多いですし、最近は紹介もしていただけるようになってきました。

**浅海** 営業部に限らず、うちの社員って元気がいいし、明るいんですよ。だから仕事もしやすいんだと思います。

**辻** どんどん新入社員が入ってくるから、会社の成長も実感しやすいのもモチベーションアップに繋がっているよ。「自分が会社を担う人材になる」とみんな考えているから、その熱量が大きいというかな。

**尾形** そうですね。これからエクセリはもっともっと大きくなりますから、私たちが頑張らないといけないですね！



全社員集会以での集合写真。

## Company data

設立：1991年7月  
(運営開始：1998年)  
住所：〒103-0007  
東京都中央区日本橋浜町2-30-1 1Kビル6F  
事業内容：無線機・インカムの販売・レンタル事業 無線機の中古流通事業 GPS位置管理システムのレンタル・販売事業  
URL：http://www.exselli.com/

プライベートも充実する。それが社員の幸せに繋がっているんです」

目標として掲げる「100年企業」は、そんな吉田社長の想いの表れでもある。社員には長く働き、幸せになしてほしい。やがて自分がいなくなった後もその想いを受け継ぎ、社員の幸せを求め続ける会社であってほしいのだ、と吉田社長は言う。

「私の目標の一つに、後継者となる人材を育てるということがありますが、今いる社員にも一生懸命頑張っている者がたくさんいます。そうした仕事に対しアツい想いを持っている人財がたくさん集まる会社になれば、この会社が100年続くこともできると思うんですよ」

同社が目標として掲げる100年企業となるためには、さらなる進化が必要となってくる。その一端を担うのは、あなたかもしれない。